

金沢美術工芸大学同窓会 平成29年度代議員会報告

●日時 平成29年11月4日(土) PM13:30～15:30

●会場 金沢美術工芸大学 本館会議室

出席者

代議員 39名(委任状提出者 2名)

※代議員総数44名

・北海道支部

奥山 哲三

・関東支部

黒澤 淳一 川崎 哲夫 中村 肇 杉浦 美代子 佐藤 一代

三谷 豊 作宮 隆 戸田 伸二 島田 由子 小林 洋子

・東海支部

加藤 高茂 瀬古 圭治 橋場 昭一

秋田 晃男 柳 智賢 青木 幸一 南 昭子

・富山支部

西藤 哲夫

・石川支部

青木 小波 寺井 剛敏 小網 重一 安島 諭 安田 薫

角谷 修 宮上 一樹 加賀 美香子 寺田 ひかり

・福井支部

吉川 弘明

・関西支部

竹綱 章浩 羽原 清明 山田 修司 伊関 秀雄 森井 淳司

高尾 茂行 垣田 英信 東川 嘉孝 村井 陽平 三島 よし美

・九州支部

下島啓吾

【本部役員】 18名

・会長:西村 知弘

・副会長:坂野 祐子 村中 稔

・監事:大村 昭男

・顧問:広瀬 靖久

・運営委員長:宮下 光信

・副運営委員長:吉端 義信 黒田 悟志

・本部会計:荒木 恵信

・運営委員:浅田 恵子 神田 龍馬 澤田 和彦 堀内 千芽

北村 賢哉 岩崎 純 根来 貴成 稲垣 揚平 ほんだしょうこ

会議次第(以下、発言要旨)

1.開会の辞 (坂野 副会長)

皆さま足元が悪い中、ようこそお集まりいただきました。ありがとうございます。

金沢美術工芸大学同窓会 平成29年度代議員会を開催したいと思います。宜しくお願い致します。

2.開会挨拶 (西村 会長)

昨年の代議員会の席で、私に会長を任命され、受けさせて頂きました。

その後、今日を迎えるにあたって、色々な分らないことがいっぱいありましたので、非公式に28年度の運営委員会の最後

の方から出席させていただきました。様子を見ながら9月・10月と3回の運営委員会を開き、今日を迎えることができました。皆さんの協力の元に進めたいと思います。私の個人としての思いですが、「やりがい」「生きがい」の三要素として自分に言い聞かせています。

一つは、長期ビジョン。近い遠い含め、自分なりのビジョンを持たないといけないと思います。

その次は、仲間の縁。それぞれではできません。皆さんと一緒にやって行きたいと思います。

そして、報われるシステム。どうすれば報われるか？を同窓会活動の何で作っていかうと自分に言い聞かせています。

自分が教員をしていたときに巣立っていく卒業生たちにそんなことを言うてきました。この考えを私の大事なものにして、臨みたいと思います。

与えられた任期を一生懸命やりますので、よろしくをお願いします。

3.出席者自己紹介（宮下 運営委員長）

席次表にて出席者の確認に代替させていただきます。

東海支部の橋場さん、南さんのお名前が席次表から抜けています。大変申し訳ありませんでした。

二人は、代議員会に参加していただいていますことをお伝えします。

4.資料確認（宮下 運営委員長）

17枚綴った資料と5支部の報告書があります。

そして、各支部長に名簿入金者リストと「49号けやき誌」発行時に宛先不明で戻ってきた名前と住所リストが入っています。個人情報的なモノが入っていますので、各支部長だけにお配りしています。

宛先不明リストの中で、移動先が分かる方がいらっしゃいましたら、サラト、宮下までご連絡ください。最新にしていきます。

5.代議員会成立宣言（宮下 運営委員長）

代議員の方が全国で44名いらっしゃいます。

本日の代議員会の成立についてですが、出席者37名。委任状提出者が2名。合計39名になります。

過半数を超えています。本会が成立していることをご報告いたします。

6.議長・議事録署名人・書記の選出および承認（宮下 運営委員長）

議長と議事録作成人の書記選出及び議事録署名人ということで、まず、議長の選出をおこないたいのですが、私の方に腹案があります。皆さまよろしいでしょうか？

議長に東海支部の加藤さんをお願いしたいと思っています。皆さまいかがでしょうか？（満場一致で承認）

承認ありがとうございます。では、加藤支部長よろしくをお願いします。

議事録は、運営委員の澤田と黒田が書記として作成します。

議事進行を加藤議長よろしくをお願いいたします。

（議長着席・挨拶）

ご指名をいただきました。議長を務めさせていただきます。東海支部)支部長の加藤です。

限られた時間の中、スムーズに進めたいと思いますのでよろしくをお願いいたします。

（以下、議長が議事進行）

7.議事

(1)70周年同窓会記念事業決算、実行委員会解散について

（宮下 運営委員長）

本来でありましたら、実行委員長の谷さん又は、実行委員会会計の渡辺さんの方から、報告をすべきところなのですが、残念ながら二人とも自用で出席できないということで、私が代理でさせていただきます。

ご了承いただきたいと思います。

まず、センターコミッティ管轄の全収支一覧の収入の部として、14,145,448円が収入となっています。

詳細は資料をご覧ください。

支出の部の寄付金にある募金箱1円は、通帳を解約したときに利子が1円だけ付いていました。本会計に入れても手数料が200数十円かかってしまいますので、1円は近くの募金箱へ入れさせていただいたことをご報告します。ご了承をお願いいたします。

同窓会の方へ戻した金額が1,928,931円となっています。

（加藤 議長）

今、要点のご説明をいただきました。今年2月に70周年事業の実行委員会として最後の会議があり、そこで色々議論、報告がありました。同窓会の活動ということで、この代議員会で承認をいただくこととなります。

ご理解をいただきたいと思います。会計報告をいただきましたので、監査をしていただいた大村様、村中様から報告をお願いいたします。

(監査 大村)

10月19日、実行委員会計の渡辺さんは忙しく欠席でしたが、村中先生と監査しました。

大変きれいに整理されていて、関係の領収書類がまとめられていました。

金沢美術工芸大学同窓会70周年記念事業の会計について、決算報告書、諸帳簿、預金通帳等を監査した結果その内容が適正かつ経理事務が正確であることを認めます。大変正確に記録されていましてところをご報告いたします。

(加藤 議長)

この件について、承認をお願いします。今の議題について質問はありますか？

(関西 高尾)

収支ですが、同窓会寄付金が500万円きれいな数字になっているというのは、実際その動きがあったわけではなく支出の1,928,931円と相殺していると解釈すればいいのですか？

この収入の寄付金は70周年事業に向けた寄付金ですか？何の寄付金か分かりません。

(宮下 運営委員長)

3年かけて70周年に対する寄付金を全国から募ったモノの500万円をこのセンターコミッティ会計の中に入れたということで、500万円が70周年事業コミッティの収入の部に上がっています。

最終的に決算を組んだ時1,928,931円が余剰金的なかたちで残りましたので本部の方へ戻したということです。

(関西 高尾)

これだったら解釈できるのですが、実質の70周年記念事業へ向けた寄付金の総額がいくらであったということが、表に出て来ないので、その辺が曖昧な決算になっているということです。

本来ならば、収入は70周年記念事業への名目で3年間に渡って寄付を受けた集計の金額がここに記載されて、それとの差額が上の方にしっかりと払い戻しとして載っていないといけない。

500万きっちりとして書いてある事態が非常におかしな会計です。それは、監査の方が見て何も思わなかったのですか？

(監査 大村)

何とも思っていないです。

通期の出し入れを見ましたから元々の経緯については、私の関知するところではありません。

(加藤 議長)

ご質問に対する回答は、宮下運営委員長と監査の方からのお話でよろしいでしょうか？

(関西 高尾)

実質の寄付金の総額は、把握されていないのですか？

(宮下 運営委員長)

ご指摘ありがとうございます。私が会計处理的なところで迂闊でした。

今年3月頃の年度末の寄付金の合計金額が口座の方に618,300円残っています。それを入れて本部の会計報告を訂正させていただきますと思います。

(加藤 議長)

具体的には今の会計報告の項目を変更ということですか？

(宮下 運営委員長)

具体的に言いますと70周年事業の決算報告については、金額の動きはなく本部の決算報告のところでは現在の70周年事業の通帳に残っているお金を収入の方へ反映させていただきたい。

(関西 高尾)

それは、どういう動きになっているか分かりません。

(宮下 運営委員長)

70周年記念事業の寄付については一旦、本部の会計に入ることになっていました。

(関西 高尾)

後から出てくる本部の会計決算報告書にも収入のところと同窓会の寄付金ということが計上されていません。

それは、どのようになっているのですか？寄付金の収入があるのであれば、当然収入の部のところに寄付金ということが入っていないわけでは無いのに、何も書かれていません。

寄付金は、いったい何処へいった？という状態になっています。

(東海 南)

結局、同窓会の70周年記念事業の寄付金というのは、5,618,300円あったということですか？

(宮下 運営委員長)

はい。そうです。

(東海 南)

それが、この中に何処にも記載されていないので、いけないのですね。

その中の500万を70周年の決算に入れて、618,300円が本部の方に入ることが抜けているということですね。

(関西 高尾)

それは、ちゃんと書き直してから承認しないと適当過ぎます。

(石川 寺井)

けやき誌に発表している「全国の皆様から5,677,874円のご寄付を賜りました。」と書いてあります。そこで、数字を発表しておいて、こちらになぜ出て来ないのか？ということです。美大からは、200万円。成美会から70万もらったと決算報告されているので、今の会計報告に項目として、ちゃんと入ってくればコミッティの方のきりの良い500万は、それで良くて本部の方でどうなったかをちゃんとされた方がいいのではないかとということが、皆さんのご意見です。数字は確認されて印刷物になっているのであれば、その経緯をご説明されたら良いのではないですか？

(石川 寺井)

追加ですが、センターコミッティ管轄の方に全収入推定額と書いてあります。「推定」というのは、決算にならないと思います。支出／収入の一番下に推定額と書いてあります。

(福井 吉川)

寄付金が積立金戻しの中に含まれてしまったということではないですか？

そこに違和感があるのではないのでしょうか？

積立金戻しに寄付金を戻して良いのかどうか？違いますか？そこで一緒に入れてしまったら、寄付金の質が分からなくなってしまうのではないですか？入れてしまって良いのですか？

(宮下 運営委員長)

今ほどの積立金戻しについてですが、言葉の表現ということもありますが、1,928,931円が余剰金として残ったので、それを本部の会計に戻すということをこのような表現にしています。

(福井 吉川)

それは、よく分かりました。収支の合わせですね。全体として、それを合わせて良いのかどうかという議論だと思います。寄付金を寄付金として使わなかったとしたら、それを別途、寄付金の形で残しておくべきではないか？ということだろうと思います。高尾さんのおっしゃったことは。

それを井勘定にして一緒に積立金の中に入れてしまうと、寄付をした人は本部の積立金に寄付をした訳ではないということになりませんか？

次の使用目的に関することだと思いますので、高尾さんのご指摘がそのとおりだと思います。

(関西 高尾)

実際、70周年記念事業を運営していくときに最初の段階では、非常にお金が集まらなくて本部の積立金から200万円を借りていますよね。補助金ではなくて全収入の中の積立金200万円というのは、運営費として本部から積立金の200万円貸してもらっているという解釈で、本来ならば支出の部で借りていた積立金200万円を「返しましたよ。」ということがあるべきだと思います。

全体の事業として寄付金が当初の予定より「多く余ったのか？余ってないのか？」は、この決算書を見ると分からない。200万円を返したのであれば、200万から192万余剰金と言っているが、実際は赤字で約8万足りない。返済したらマイナスの事業だったということですか？

(宮下 運営委員長)

そのことについては、確か3年前の代議員会で200万円を一旦貸出すという形になっていました。そして、翌年の代議員会の時に、貸出しは使いづらいということで200万円を拠出するとなりました。貸出しではなく拠出ということを皆さまから決議をしていただいています。

ですから、「貸した。貸していない。」ということはないということです。

先ほどの吉川さんからのご質問はですが、「寄付金のままで残しておいた方が良いのでは？」というご意見に対して、余剰

金という形で一旦残した上で、本部に戻すという手続きを踏むのも一つだったと思いますが、その流れがこの中でなされているということで、これで行かしていただけないかと思っています。

寺井さんから指摘いただきました70周年記念事業の決算書の中で支出の部／収入の部の下端の推定額と入っている「推定」を削除して訂正させてください。

そして、寄付金総額5,677,874円の扱いについては、本会計の方で扱わせていただきたいと思います。

(関西 高尾)

払い戻した残額が狂ってきます。

(宮下 運営委員長)

残額自体は狂わないです。本会計の収入の部に70周年記念事業の寄付金として、5,677,874円を入れて、支出の部に70周年記念事業へ支出として500万円を入れた形で決算をさせていただきたいと思います。

(関西 高尾)

その差額の60万というのは、積立金戻しになるのですか？

(宮下 運営委員長)

実際678,774円は、まだ70周年の寄付金の口座に残っています。

今は、本会計の口座と寄付金の口座を合わせた足し算はまだ出来ていませんが、次期の繰越金になることになります。

(関西 垣田)

今、お聞きしたように同窓会本部の積立金から200万円を拠出していただいて、結果的に1,928,931円を戻したということで理解していますが、先ほど寄付金500万円を本部の方に算入されたとお聞きました。寄付をしている人は、70周年記念事業のために寄付をしているつもりです。560数万の全額をここに書いてもらわないと、500万という数字になっていることは不自然だと思います。

先ほど、宮下さんから説明していただいたとおりだと思いますが、この会でもう一度出し直すことは無理ですので、再度、後日、最終的な決算報告を出していただく必要があると思います。

(東海 南)

また10年後に80周年記念があると思いますが、その時まで残ったお金や寄付金の残りを別会計で別の通帳に置いておくことはいけませんか？

前回も70周年をやるときに「貸し付け」だとか何とかと言って、不適切な言葉がありましたので発言しました。

今度80周年の実行委員会が立ち上がったときに「前回の残りで使いますよ！」ということがあったと動きやすいのではないかと思います。そういうことは今更無理ですか？

(宮下 運営委員長)

本会計の決算報告書の次期繰越金のところをご覧ください。

5,985,038円と出ています、この中に積立金として70周年事業から200万と周年の積立金20万を含むというように摘要欄の中に入れさせてもらっています。今、南さんのご意見のように今後、例えば美大の移転のこともありますし、80周年かは分かりませんが、何がしかの事業をするためのために、この200万と20万を特別会計的な扱いとして入れるために記載してあります。よろしいでしょうか？

もし、特別会計を組んだ方が良いというご意見が多い様でしたら、来年に向けてこれから特別会計を組み、積立金という様なことをしていきます。

(加藤 議長)

今、修正というお話がありましたが、同窓会の会計として通帳をどうするか？という判断ですが、本部の会計と70周年の会計と2つあります。それ以外の同窓会活動の特別会計を取るというご提案の内容がありました。

70周年の残ったお金を特別会計に立てるということに関する賛成・反対・ご意見がありましたらお願いします。

(関西 羽原)

私見ですが、先ほどの本部の70周年事業の200万と積立金20万、合計220万。これが繰越金として本部へ計上されるということは、220万が70周年事業からのお金です。センターコミティの方にも同じ言葉と額面が出てこないと思いがちです。お金の流れと明細は別として、括りの項目に対するお金の流れが一致していないとか、読み取れないということが、この決算書の問題だと思います。ですから、必要な項目とそこに関わるお金の流れが、収支で誰もがハッキリと読み取れるような決算書を改めて作り直していただきたい。

(加藤 議長)

今の特別会計を立てるということについては、必要ないということではよろしいでしょうか？

つまり、70周年の会計報告ということで出ているものに、これから出てくる本部の同窓会会計とのやりとりで、整合性をもた

せると数字の違いを修正するということになります。他、ご意見ありましたらお願いします。

(福井 吉川)

同窓会の会計決算報告書ですが、次期繰越金というのは、支出ですか？

(加藤 議長)

ここでは、支出になります。次の29・30年度のときにこの金額が繰り越しとして上がってきます。

(石川 寺井)

先ほど、垣田さんがおっしゃるように積立金にするのであれば、括弧の70周年事業から200万ということは、ここで了承されていないです。余っている60何万というのは実際、寄付金として残ったのであれば、「それを積立金として残すのが良い」と皆さんがおっしゃっているのではないですか？200万残すということは誰もが「なぜ200万なの？」という話になってしまいます。

(宮下 運営委員長)

今現在の額が、70周年記念事業の口座に623,226円残っています。

70周年の寄付金合計額は、5,623,226円になります。けやき誌に載っている5,677,874円は、振込手数料を引かないで合計した金額です。

「その額を一旦、本会計の中に入れて70周年記念事業の口座に寄付金を全額入れたらどうか？」というお話をいただいています。70周年記念事業の会計はそれを前提に作っていません。それについては、本会計の中に70周年記念事業の寄付金を入れさせていただきたいと思います。

当初から70周年記念事業は、本会計に一旦入った寄付金を70周年記念事業の方へまわすというやり方を取っていましたので、そのような形でご了承をお願いしたいと思います。

そこで、本会計の決算報告の中に5,677,874円を収入の部に入れ、支出の方に70周年の会計500万円を入れることにします。そうすると収入支出の合計額が21,200,218円になります。次期繰越金が6,662,912円になります。

これを正式な決算書として作り、各支部へお送りして決算をしていただくという形を取りたいと思います。

積立金のことについて、皆さまのご意見をいただきたいです。今回いろいろお金の面でありましたので、積立金を明確な別会計のような形を取っていくことが良いのではないかと考えています。

そのことについて、皆さまのご意見をいただきたいと思います。

70周年記念事業を閉めたときに約200万円が本会計に戻ってきました。そして、毎年20万円を積み立てていましたので、今年1年目の20万を合わせて220万円をベースに特別会計を組むということのご承認をいただきたいと思います。

(関西 高尾)

その前に確認したいです。実際の預金通帳上のお金の動きは、具体的にどうなっているのですか？

すでに70周年の寄付金の口座から、積立金の口座に200万円を移されているのですか？

(宮下 運営委員長)

移されています。

(関西 高尾)

宮下さん個人的な判断で移されているのですか？

70周年実行委員会で議決されたのですか？例えば、代議員会でやるべきことではないかもしれないが、70周年実行委員会の時に「余剰金をどうするか？」「積立金をどうするか？」という議論ができたはずではないですか？

その議論をやらないで放ったらかしにしているから、ややこしいことになっています。

代議員会で議論することは本来なら、正しくないと思います。

いつ200万を積立金に移されたのですか？それは、どこで議決されたのですか？誰の指示ですか？

70周年の寄付金の口座というのが別にある訳ですよ？

寄付金の口座から積立金の口座に移したのですよね？

(宮下 運営委員長)

積立金の口座は、存在していません。

(関西 高尾)

存在していません。ではまだ、寄付金の口座にあるということですか？

(前会長 広瀬)

積立金についてですが、毎年20万を積み立てて、10周年の事業資金にしていこうということは、40周年の終わった時から

です。毎年20万ずつ積み立てて、50周年、60周年を行いました。昔から各年で20万を積み立てて置こうという考えです。それは、別の会計も何もしなくて、中で10周年のときの準備で200万を積み立てて置こうという習慣みたいな、それは特別の会計も組んでいないし、積み立ての口座も作っていない訳です。そのような経緯で来たものですから、今度の70周年記念も「200万という資金を用意していました。」ということだけです。確かにこの寄付金の動きは、本部に入ったものです。しかし、寄付をした人は70周年のための寄付だということで寄付された訳ですが、本部に入ったものから支出したということは、内容は間違っていないと思います。積立の金額だけについて説明しておきます。

(加藤 議長)

状況のご説明をいただきました。

会計報告の見直しをしないといけないという状況ですので、少なくともセンターコミッティの収入の中の同窓会寄付金の数字を変えないといけないです。

(東海 南)

70周年の実行委員会が始まった時に「資金が足りない」と思っていたので、戻すことなんか夢にも思っていなかったと思います。でも現実には、たくさん寄付金が集まったので戻せる訳ですが、余剰金200数十万は、積立金200万という数字に近い金額ではありますが、正確ではありません。

70周年事業の200数十万という余剰金を積立金に持ってきて、今までの周年積立20万を各年で足していき、次の事業に使うということにすれば良いと思います。

また先ほど、「寄付金の5,677,874円から手数料が引かれます。」というのは、支出の部分に書かないといけない。書かれていないです。その辺がキッチリしていないと思います。

(関東 黒澤)

実行委員会の会計ともう一度、擦り合わせてやり直し。本部。端数が出ていないというのは、おかしいです。

割り切れる数字でやったらまずいです。この場でもっと問題があったら出してください。本部としては、キッチリと70周年実行委員会の谷さん、池上さん、渡辺さんを入れて、もう一回やり直すと宣言して改めて監査を受けて、支部長レベルに郵送なり、メールなどで送るということではいかかですか？(一斉に拍手)

南さんの発言のとおりで、手数料もすべて入れないといけないのに入っていないことがおかしいです。

これは本部だけの問題ではなくて、全員の問題かもしれないのでよろしくお願いします。

(加藤 議長)

ご意見ありがとうございます。

(石川 寺井)

追加をお願いします。

先ほど、仰っていた積立というのは、通帳の中の移動だけだったので、例えば、定額定期にして毎年20万を引くとか、今回の260何万は定期にするとか、一度抜かないと通帳の中で積立と言っているからよく分からなくなっていて、お金はちゃんと移動して残すとか、何かその辺りの工夫を是非していただきたいと思います。(一斉に拍手)

(石川 青木)

追加です。

昨年の代議員会では、寄付金の集計表を全国まとめて配布されています。会計をまとめられるときに最後の報告として、また作成していただきたいと思います。

(宮下 運営委員長)

皆様のご意見をいただきたいです。

70周年の支出のところで、余剰金の同窓会積立金戻し1,928,931円と70周年寄付金の方に60数万が残っています。それを合わせて別口座に移す特別会計を組むということが良いか？一旦、本部の会計に入れた上でまた別の会計を作るか？

(関東 黒澤)

イベント・周年事業口座ということで、今日の余剰金やそこに毎年の20万ずつ入れていくということでやれば整理がつくのでは？通帳を2つ作って、例えば、そこに今回の余剰金200何十万を入れて、そこに毎年20万ずつ本部口座から入れていくということでやれば、整理できるのではないですか？

(福井 吉川)

70周年の実行委員会のときに本部から貸付けという問題があって、何かおかしいなあという話で、それが無くなった。

関東支部から周年記念用の通帳を作るというご提案がありました。それで良いじゃないですか！

20万ずつ毎年、周年記念用の通帳に入れていくということで。お金が足りない時にそれを使えば良いという訳ですね。

初動体制だったですね。「お金がないとどうするのだ。」ということだったので。

実際は、積立金があった訳で、それが無いからどうしようということだった。
誤解がないように周年記念用の通帳を別に作るということで、この話はそれで収まりそうですけどね。

(宮下 運営委員長)

確認ですが、私の言っている特別会計というのは周年記念用の口座で、通帳です。それを作るということは、皆さんご了承いただけていますか？(満場一致で承認)

決算は、修正箇所が沢山ありますので、そこを改めさせていただきます。それを支部長さん宛に発信させていただきます。どういうルートでお金を動かすか？ということになりますが、新しく作る口座に70周年の1,928,931円を直接入れるのか？一旦本部の会計の中に入れて移すのか？ということ、こちらに任せていただきたいと思います。

現実、1,928,931円は既に本部の口座に入っていますので、それをトレースできる形でやりたいと思っています。それをお任せいただきたいと思っています。

(加藤 議長)

議題(1)について修正をするということで、

承認はいただけないということで、一区切りつけます。

(関西 垣田)

70周年の会計は一旦閉めるべきものなので、これで閉めていただいて、今「周年のために特別会計を組む」と仰いましたが、周年だけでなく新校舎の完成等、何があるか分かりません。同窓会として例えば、『記念事業特別会計』等の名前にして作っていただければどうかと思いました。そのような提案をさせていただきます。

(加藤 議長)

そうしましたら、議題(1)につきましては、修正ということで進めます。よろしいでしょうか？(満場一致で承認)

(石川 宮上)

まず承認できない70周年事業の会計報告の500万のところの数字に端数を入れれば済むのでしょ？

(加藤 議長)

この場で数字だけ確認して済むという問題ではありません。この決算を却下して改めて作成していただくということです。

(宮下 運営委員長)

年内には、直したいと思います。

(加藤 議長)

12月の末までに直していただきます。

特別会計については、本部の会計担当と運営委員長の判断で進めていき、特別会計を設けることでよろしいでしょうか？
(満場一致で承認)

(加藤 議長)

ご承認をいただけたということで、特別会計を設けて進めることでいきます。

(2)平成28年度本部活動報告

(加藤 議長)

別紙2により説明 ※平成29年10月1日～平成30年9月30日

本部に関連しているので、修正ということでご承認をお願いいたします。(満場一致で承認)

(3)平成28年度本部決算報告

(宮下 運営委員長)

70周年に関連する以外のところを会計の荒木さんから報告していただきます。修正した上で最終的承認をしていただきたいと思いますので、この場は一般的なところの報告だけでお願いいたします。

(会計 荒木)別紙3により説明 ※平成29年10月1日～平成30年9月30日

2年に一度の決算ですので、今年は監査の年になります。今ほどの70周年のこともありますので、金額は若干変わってくると思いますが、何に使われているということは、お伝えさせていただきます。

収入のところでは、毎年同じなのですが、28年度は70周年のことがありましたので前年よりも少なめになっております。

(監査 大村)

一応、言わせていただきます。監査報告は、完全無欠なモノとして提出されている訳ではないです。この場に領収書の山を持ってきたら、とんでもないです。前もって先のプリントがあります。これと対応した領収書を一時間程かけてチェックしてサインする訳です。

これを元に討議すれば良い訳ですから、完全無欠なモノではないです。
私は特に言いたいことは、この会計の方の大変な煩雑な役務。それを心から敬意を表したいと思います。

(加藤 議長)
決算報告書は、改めて作成していきます。
(満場一致で承認)

(4)平成29年度本部活動計画

別紙4により説明 ※平成29年10月1日～平成30年9月30日
(満場一致で承認)

(5)報告 広瀬顧問就任について

(西村 会長)
運営組織を設けたが、過去のことなど教え頂いたり助ける立場で広瀬さんに顧問をお願いする事を検討しました。
規約では、会長の任命権で顧問を設ける事が出来るとあるので、もう暫く広瀬さんに助けていただきたいと思います、顧問をお願いしました。
(満場一致で承認)

(6)平成29年度支部活動計画・平成30年度支部活動計画について

各支部から報告があった。
・北海道支部(奥山 支部長)
昨年より支部長に。(工藤さんから奥山さんへ)
70周年に合わせ展示会を開催。前年にプレ大会を開催。
2017年7月にその反省会を開催(11名出席)。
今後の活動計画は、これから進める。
70周年を機に役員の大規模な入れ替えを行い体制を整えて行く。
北海道出身者も結構いるはずだが所在が不明なため、この確認から行いたい。

・関東支部(黒澤 支部長)
黒澤支部長より：
70周年事業では、美大生の18%が参加し大成功だった。
改めて谷実行委員長、池上副委員長、渡辺会計の方々にお疲れ様と申し上げたい。
東京けやき会のネットに事業報告を載せている。
中村さんより：次回の企画について報告。
2020年の東京オリンピックに合わせイベントを計画。場所は、これまでの銀座からメイン会場を秋葉原にする。
佐藤さんより：この次回計画についての詳細報告。
銀座とも近いので、これまでと同様に銀座で行いという気持ちもある。
世界から人が集まるので皆さんからぜひ作品を出品して欲しい。
「3331」というアートスペースが会場予定。

・東海支部(加藤 支部長)
平成28年から支部長が変更。(西村さんから加藤さんへ)
平成28年度活動報告及び支部の新体制について別紙詳細報告の通り。

・富山支部(斎藤 代議員)
昨年開催のけやき展の事業報告及び第43回「けやき展」の事業計画についての報告。
別紙の通り。
会員に若手が少なく高齢化が進んでいる。

・石川支部(青木 支部長)
活動報告に関しては、けやき誌に記載の通り。
新しい活動としてフェイスブックページを開催し活動を掲載している。
皆様、「いいね」ボタンを押して下さい。

・福井支部(吉川 代議員)
活動は、けやき誌に掲載。
同窓会規約の改正をぜひとの声がある。
正会員についての規約について中途退学者への配慮について検討を。
「同窓会会長の承認を得た者は、正会員となる事ができる」とあるが分かりにくい。

この条項の削除し、大学に入学した時点で同窓会会員になる。という項目で規約改正の提案をしたい。

・関西支部（竹綱 支部長）

別紙報告書の通り。

大きな懇親会を計画している。神戸で開催予定。

昨年 70 周年で行ったワークショップが好評でしたので、何とか世界貢献として関西で継続できないか？と思い検討している。

70 周年事業の BYOBU 展、KANABISM 関西展作品リスト（写真入りカラー）を全支部会員にけやき誌に同封し郵送した。

・九州支部（下島 代議員）

今年の活動は、けやき誌に掲載。

今年の活動は、今年 8 月に総会を開催。

役員の変更、次期けやき会の開催とスタッフについて決定をした。

役員に関しては、今回配布の名簿の通り。（支部長：原田さんから阪本さんへ）

来年開催予定の第 4 回九州けやき会についての会議を年度内に開催予定。

提案として、各支部からの配布の報告書を形式化してはどうか。

(7)けやき誌について

（西村 会長）

支部からのボリュームが増え好ましい。

2017 卒の 3 月卒業生には送付されていない。住所へ送付することの承諾を取れなかった。

個人情報の観点から送付しなかった。

これまでは、この個人情報の扱いは、あいまいに行ってきた。

（北村 運営委員）

各支部で原稿を作成し 3 年、A4 カラーになり 3 年目となり充実してきた。

今後は、70 周年のアーカイブ的な内容を掲載予定。厳しい納期の中、情報提供ありがとうございます。

今後も各支部の皆さんの想いを伝えて頂く内容になっていけたらと思っている。

（関西 高尾）

来年度は、カラーにすることで作品の微妙なニュアンスも伝わるので

けやき誌は、ぜひ全ページカラーにする様、この場で決議を。

（西村 会長）

このカラー化については、要望としお聞きし、コスト面を含め検討をして行く。

(8)その他

（西村 会長）

大学と同窓会との運営に関して、大学内に同窓会運営の組織を作ってもらえないか広瀬前会長による提言書を作成し学長に相談をした。

提言書は、別紙。

（石川 寺井）

この提言に関する内容は、未だ学内に降りてきていない。

この様な部局が学内に出来る事により、本部での先生の役割を減らせるのか？

（西村 会長）

新しい体制になれば出来るだけ、本部から先生方の名前を外し、支援から自立し運営をしたい。

（石川 寺井）

毎年同じ方々が担当している状況を変えてゆくルールや仕組みにして欲しい。

（西村 会長）

この提言書を提出しお願いをすることで、大学側に前に進んで頂けると思う。

（西村 会長）

サラトに関して、これまで情報が少なかったので、会社概要を別紙に掲載。

プライバシーに関しても対応が配慮されている。

5 年に 1 度、83 万円をサラトに支払い、印刷、名簿管理と発送を行ってもらっている。

その他、サラトとの確認事項は、別紙に記載。

カラー化に関しても広告を掲載することで費用をまかなう方法もあり、今後検討したい。

作成した名簿は、紙とデータで同窓会でも保有している。

今年度の卒業生にけやき誌を送付する件では、対象学生に文章でこの旨を知らせるので書面を作成し、大学とすり合わせを行う。

文章案は、別紙。

名簿の作成方法なども本部の運営委員会で協議する。

準会員、正会員の違いを設けないという意見についても規約改正もあるので慎重に協議したい。

(広瀬 顧問)

中退者も名簿には掲載してきた。

入会金の支払いをしていない者は、掲載していない。

(西村 会長)

けやき賞について

予算は、あと1、2年はある事を大学に確認を行った。

(福井 吉川)

同窓会の資格に関して規約では、同窓会会長が認める場合には云々とあるが、この条項の見直しをお願いしたい。

8.閉会の辞

(西村会長)

本部の協議内容を議事録で作成して、各支部長には流しています。

各支部長から各代議員へ流すかは、判断に任せます。

そうすることで会議等がスムーズにゆくよう協力をお願いしたい。

皆さま、長い時間にわたってありがとうございました。

(一斉に拍手)